事例No.	2691
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー

事例区分	地域活性化

タグ	・観光 ・関係人口 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー

出典

令和元年度ふるさとづくり大賞事例集

優　秀　賞

一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー　和歌山県田辺市

観光振興・交流　まちなか再生　環境保全　産業振興

概　要

本団体は、平成16年の「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録や平成17年の市町村合併等を契機に、平成18年に田辺市内の５つの観光協会を構成団体とし、世界遺産の登録地域である熊野地域に国内外から観光客を呼び込むことを目的に設立された官民共同の団体である。

設立当初から「世界に開かれた質の高い持続可能な観光地」を目指して国内外への情報発信を実施するとともに、当地域のソフト・ハード両面の受入環境の整備に取り組んだ。平成22年には、日本初の試みといえる欧米豪からのFIT(Foreign Independent Tour 海外個人旅行）に対応できる着地型旅行業を開業。大手旅行業者では企画できない地域住民との連携による滞在プログラムを多数企画・販売するなど、日本版DMOのビジネスモデル的な存在としての地位を確立している。



【熊野古道を歩く外国人観光客】



【受け入れ宿泊施設のワークショップ】



【サンティアゴ･デ･コンポステ市観光局との共同プロモーション】

評価された点

・世界遺産である熊野の精神文化を理解してもらうことを目標に、主に欧米豪の個人観光客を中心に、様々なプロモーション活動を実施している。世界に開かれた質の高い持続可能な観光地を目指して、ハード・ソフトの受け入れ環境を整備。また、地域の人々の意識を変えて参加を促すような取り組みも展開している。日本版DMOの模範となる活動と評価できる。
・国内のDMO機能組織の先駆け。自主事業による収益で運営されている好事例。インバウンド対応も進み、海外への発信力も評価できる。
・インバウンド誘致の仕組みづくりのモデルとして日本有数。着地型旅行業の仕組みを活用した先進性、官民連携の協働性、その結果として事業収益、誘客数の増加につながっており、今後の顧客満足度向上にさらなる寄与が期待できる。
・質の高い観光地を目指して、地域一体となりハードとソフトの両輪で事業展開を行っており、多くの成果を生み出している。
・世界遺産登録等により、観光の流行の変容にも寄り添いながら、常にニーズに合わせながらもマナーの問題、管理の問題等、継続のためにツーリズムビューローが担ってきた役割は大きく、高く評価できる。
・国内外でのプロモーション活動により認知度が高まり、観光による地域振興や経済効果は大きな成果となっている。特に、海外からの注目度が高く、滞在型プログラムは素晴らしい。